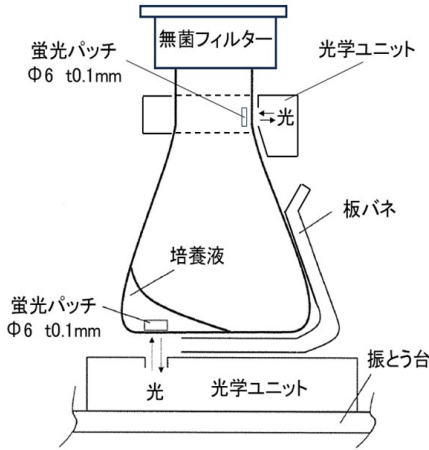


振とうフラスコ気相O₂連続測定装置

既設振とう機に付設可能・液相DOも同時測定可能
ベントフィルターの性能調査に！

特徴

- ・ フラスコ首内壁に蛍光パッチを貼付け、外側から光スポットが当たる様に光学センサーユニットをワンタッチで固定
- ・ 光学ユニットはDO測定と合わせて6個まで接続可能
- ・ ABLE R&D REPORT No.11 6ch振とうフラスコ連続DO測定装置もご参照ください。
<https://willap.jp/archive/7828/bey42v9DSeWE46S--bVbdw>



気・液同時酸素測定システム



藤嶋昭 東京大学特別荣誉教授・東京理科大学荣誉教授 監修

発明・発見
シリーズ
021

食事から摂取した炭水化物等は体内で分解され、糖（ブドウ糖）として細胞に取り込まれ、生命維持に欠かせないエネルギー源となる。しかし、糖が細胞に吸収されずに血液中に高濃度で留まると、血液が粘り気を帯びて流れにくくなり、動脈硬化をはじめとする血管の病気や糖尿病を発症しやすくなる。さらに悪化すると、失明や腎機能の低下による透析、あるいは壊疽（えそ）による足の切断といった深刻な合併症を引き起こすこともある。糖を細胞に取り込ませ、血糖値を正常に保つ役割を担うホルモンがインスリンである。しかしインスリンは、膵臓が分泌する消化酵素によってすぐに分解されてしまうため、長い間その存在が明らかにならず、多くの命が糖尿病によって失われていた。

カナダのフレデリック・バンティング（1891～1941）は、イヌの膵臓と十二指腸をつなぐ管を縛ることで、膵臓から消化液が出ないように工夫し、未知の物質だったインスリンを抽出することに成功した。その後、マクラウド（英）とともにインスリンの大量生産法を開発し、多くの糖尿病患者の命を救った。この功績により、2人は1923年にノーベル生理学・医学賞を受賞している。糖尿病は初期症状が現れにくいのが、継続的な運動、適切な食事、十分な睡眠によって予防することができる。なお、バンティングによるインスリン発見は、実験に懐疑的だったマクラウドが休暇中に行われたものであり、成果の帰属をめぐるは今も議論が残っている。



糖
の
功
罪

開発・製造

ABLE エイブル株式会社

www.able-biott.co.jp

・カラー版配信
・お問い合わせ
フォーム



お問い合わせは、株式会社バイオットまで

販売元

Biott 株式会社バイオット

本社

〒162-0812 東京都新宿区西五軒町 6-10

TEL : 03-3260-0415 (代)

FAX : 03-3260-0407

大阪営業所

〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原 5-1-3

TEL : 06-6398-1260

FAX : 06-6398-1261